

第30回 日本サイコオンコロジー学会総会 第23回 日本臨床死生学会総会 合同大会

会長&招待講演 《10月14日(土) 11:20~12:20》 第1会場(8F/大ホール)

座長：明智 龍男(名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野)
飯森眞喜雄(東京医科大学名誉教授・いいもりこころの診療所 院長)

[Psycho-Oncology in Asia-Pacific - Future directions]

演者：Richard Fielding

(Division of Behavioural Sciences, School of Public Health, The University of Hong Kong)

[死までの生を生きる]

演者：大西 秀樹(埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科)

特別講演1 《10月14日(土) 13:40~15:00》 第1会場(8F/大ホール)

座長：大西 秀樹(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)

[死までの生を生きる]

演者：樋口 恵子(NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事長、東京家政大学名誉教授)

特別講演2 《10月15日(日) 9:15~10:45》 第1会場(8F/大ホール)

座長：白井 徳満(秋津療育園 園長)

[写真が語る、いのちのバトンリレー ～被災地、紛争地、在宅看取りの現場から～]

演者：國森 康弘(写真家・ジャーナリスト)

特別講演3 《10月15日(日) 14:00~15:00》 第1会場(8F/大ホール)

座長：松島たつ子(ピースハウスホスピス教育研究所 所長)

[がんを生き抜く人を支える]

演者：田村 恵子(京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻)

特別講演4 《10月15日(日) 15:20~16:20》 第2会場(1F/小ホール)

座長：内富 庸介(国立がん研究センター中央病院 支持療法開発センター)

[わが国のがん対策における緩和ケアとこころのケア： 第三次がん対策推進基本計画案をふまえて]

演者：久保田陽介(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)

招待講演 《10月14日(土) 15:20~16:20》 第2会場(1F/小ホール)

座長：飯森眞喜雄（東京医科大学名誉教授・いいもりこころの診療所 院長）

[トトロと空海は、サイコオンコロジーと
死生学に何を教えてくれているのか？]

演者：保坂 隆（聖路加国際病院 精神腫瘍科）

シンポジウム1 《10月14日(土) 10:00~11:00》 第1会場(8F/大ホール)

座長：松田 能宣（近畿中央胸部疾患センター 心療内科）
金子 健（慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター）

[ケミカルコーピングへのアプローチ実践セミナー！]

SY1-1 ケミカルコーピングのアプローチ

シンポジスト：小林 直子（国立がん研究センター東病院 看護部）

SY1-2 ケミカルコーピングは患者自身の問題それとも医療者の問題？

—用語の整理と対処法を考える—

シンポジスト：木下 寛也（東葛病院 緩和ケア科）

SY1-3 心療内科から見た慢性疼痛の治療

シンポジスト：水野 泰行（関西医科大学 心療内科）

シンポジウム2 《10月14日(土) 10:00~11:00》 第2会場(1F/小ホール)

座長：四宮 敏章（奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

[子どもを亡くす、配偶者を亡くす～私たちにできること～]

SY2-1 配偶者との死別を経験した遺族に生じる問題と援助のあり方について

シンポジスト：大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

SY2-2 「良かれと思って言ったのに…」 実は遺族を傷つけるUnhelpfulな言葉かけ

シンポジスト：石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

SY2-3 子どもを亡くした遺族へのケア

シンポジスト：多田羅竜平（大阪市立総合医療センター 緩和医療科・緩和ケアセンター）

シンポジウム3 《10月14日(土) 10:00~11:00》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：岩満 優美 (北里大学大学院 医療系研究科医療心理学)

横尾実乃里 (神奈川県立がんセンター 精神腫瘍科)

[高齢がん患者の治療をめぐって－意向の異なる患者と家族を支援すること－]

SY3-1 「高齢がん患者の治療をめぐって」

－意向の異なる患者と家族の支援を緩和医療科医師がいかに行うか－

シンポジスト：松本 暎久 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)

SY3-2 「高齢がん患者の治療をめぐって」～看護師の立場から意思決定支援を考える～

シンポジスト：木野美和子 (筑波メディカルセンター 看護部)

SY3-3 がん相談支援と認知機能評価に携わる心理士の視点から

シンポジスト：藤松 義人 (鳥取県立中央病院 がん相談支援センター)

シンポジウム4 《10月14日(土) 13:40~15:00》 第2会場 (1F/小ホール)

座長：辻 哲也 (慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室)

岡村 仁 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院)

[サイコオンコロジースタッフが知っておきたい がんリハビリテーション]

SY4-1 がんリハビリテーション概論

シンポジスト：宮田知恵子 (国立病院機構東京医療センター 緩和ケア内科)

SY4-2 がんリハビリテーション～腫瘍精神科医の立場から～

シンポジスト：岡村 仁 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院)

SY4-3 精神心理面へのアプローチ～リハビリテーションスタッフとしての立場から～

シンポジスト：田尻 寿子 (静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科)

SY4-4 がんリハビリテーション～心理職の立場で考える意義と協働の魅力～

シンポジスト：大庭 章 (静岡県立がんセンター 精神腫瘍科・がん相談支援センター)

シンポジウム5 《10月14日(土) 13:40~14:40》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)

座長：清水 研 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

加賀谷 肇 (明治薬科大学 臨床薬剤学研究室)

[がん患者に携わる薬剤師に求められる役割～現在までの歩みと未来への展望]

SY5-1 がん患者に携わる薬剤師の介入の現状

シンポジスト：工藤 浩史 (国立病院機構東京医療センター 薬剤部)

SY5-2 明日からの臨床に役立てるために～知っておきたいがん患者の心理と医療者自身の心構え～

シンポジスト：清水 研 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SY5-3 緩和医療を担う薬剤師に伝えたいこと

シンポジスト：加賀谷 肇 (明治薬科大学 臨床薬剤学研究室)

シンポジウム6 《10月14日(土) 15:20~16:20》 第1会場(8F/大ホール)
座長: 奥山 徹(名古屋市立大学病院 緩和ケア部)
角甲 純(国立がん研究センター東病院)

[エキスパートに学ぶ!がん医療におけるせん妄対策で重要なポイントとは]

SY6-1 せん妄対策のエッセンスー医師(精神科医、心療内科医)として

シンポジスト: 明智 龍男(名古屋市立大学大学院 医学研究科
精神・認知・行動医学研究分野)

SY6-2 薬剤師に求められるせん妄対策のエッセンス

シンポジスト: 谷向 仁(京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻
リハビリテーション科学コース 作業療法学講座
脳機能リハビリテーション分野)

SY6-3 看護師はせん妄にどのように関わるか?

シンポジスト: 井上真一郎(岡山大学病院 精神科神経科)

シンポジウム7 《10月14日(土) 15:20~16:20》 第4会場(7F/イベントホールC、D、E)
座長: 清水 研(国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)
大西 秀樹(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)

[人生の新しい扉をひらく～がん体験後の心理的成長～]

SY7-1 がん体験後の心理的成長を育むサイコセラピー

シンポジスト: 清水 研(国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

SY7-2 集団精神療法による進行・再発がん患者の心的外傷後成長

シンポジスト: 石田 真弓(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)

SY7-3 患者体験を通じて

シンポジスト: 杉山 直也(公益財団法人復康会 沼津中央病院)

シンポジウム8 《10月14日(土) 16:30~18:00》 第1会場(8F/大ホール)
座長: 大西 秀樹(埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科)
河西 千秋(札幌医科大学 神経精神医学講座)
指定発言: 天野 慎介(一般社団法人全国がん患者団体連合会)

[がん患者と自殺の問題に向き合う]

SY8-1 人はなぜ自殺するのか—自殺プロセスについて

シンポジスト: 張 賢徳(帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科)

**SY8-2 日本医療機能評価機構認定病院患者安全推進協議会・院内自殺の予防と
事後対応に関する検討会の自殺事故調査**

シンポジスト: 大塚耕太郎(岩手医科大学 神経精神科学講座)

SY8-3 入院患者の自殺予防対策: その実践と課題・展望

シンポジスト: 河西 千秋(札幌医科大学 神経精神医学講座)

シンポジウム9 《10月15日(日) 10:25~11:25》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：吉田 沙蘭（東北大学大学院 教育学研究科）
小泉 智恵（国立成育医療研究センター）

〔挙児を希望するがん患者への心理的支援〕

SY9-1 がん医療における小児、思春期・若年がん患者の妊娠性温存をめぐる問題

ーがん・生殖医療を実践するために

シンポジスト：鈴木 直（聖マリアンナ医科大学 産婦人科）

SY9-2 がん医療現場で求められる情報提供のあり方

シンポジスト：竹内 恵美（国立がん研究センター中央病院 相談支援室）

SY9-3 がん患者の妊娠性温存における心理支援

シンポジスト：奈良 和子（亀田総合病院 医療技術部臨床心理室）

シンポジウム10 《10月15日(日) 11:00~12:30》 第1会場 (8F/大ホール)

座長：長山 忠雄（千葉県がんセンター名誉センター長）
石谷 邦彦（東札幌病院）

追加発言：濱口 恵子（がん研究会有明病院緩和ケアセンター）

〔がんと死生学〕

SY10-1 天寿がん思想

シンポジスト：北川 知行（がん研究会がん研究所 名誉所長）

SY10-2 学校でのがん教育

シンポジスト：西山 正彦（群馬大学医学系研究科 病態腫瘍薬理学）

SY10-3 "コレージョン" 研究ーがん緩和ケアの新たな実存的・精神分析的アプローチ

シンポジスト：中村 健児（札幌病院 総合診療科、緩和ケア科）

SY10-4 生きる意味とmeaning-centered psychotherapy

シンポジスト：藤澤 大介（慶應義塾大学 医学部精神神経科／緩和ケアセンター）

シンポジウム11 《10月15日(日) 11:35~12:35》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：奥山 徹（名古屋市立大学病院 緩和ケア部）
大庭 章（群馬県立がんセンター 精神腫瘍科・がん相談支援センター）

〔多職種カンファレンスにおけるサイコオンコロジストの機能：多職種カンファレンスのグループダイナミクス〕

SY11-1 多職種カンファレンスにおいてサイコオンコロジストはいかにあるべきか？

シンポジスト：岡島 美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター 精神科）

SY11-2 多職種カンファレンスにおけるサイコオンコロジストの機能：

リエゾンナースの立場から～多職種カンファレンスのダイナミクス

シンポジスト：梅澤 志乃（東邦大学医療センター大森病院 看護部）

シンポジウム 12 《10月15日(日) 14:00~15:00》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)

座長：松島 英介（東京医科歯科大学 心療・緩和医療学分野）
鈴木 伸一（早稲田大学 人間科学学術院）

〔公認心理師制度は、がん医療にどのような発展をもたらすか〕

SY12-1 公認心理師制度について

シンポジスト：中嶋 義文（三井記念病院 精神科）

SY12-2 公認心理師制度は、がん医療にどのような発展をもたらすかー心理職の立場からー

シンポジスト：岩瀬 優美（北里大学大学院 医療系研究科医療心理学）

シンポジウム 13 《10月15日(日) 15:20~16:20》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：鈴木 勝己（早稲田大学 人間科学部）

〔看取り文化の「創造」に向けた世論形成への挑戦〕

SY13-1 老いと死をめぐる町民の勉強会から：医療者と宗教者との連携の可能性

シンポジスト：浮ヶ谷幸代（相模女子大学）

SY13-2 死について語りましょう：世界に広がるデスカフェという試み

シンポジスト：鷹田 佳典（早稲田大学 人間総合研究センター）

SY13-3 新都心ホームケアクリニックにおける市民勉強会の成果

シンポジスト：小野 充一（早稲田大学 人間科学学術院）

セミナー 1 《10月14日(土) 16:30~18:00》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

〔サイコオンコロジー研究のレベルアップのためのリサーチデザイン —リジェクトされても心折れずに論文採択にいたるための本質—〕

SE1-1 サイコオンコロジー研究のレベルアップのためのリサーチデザイン —リジェクトされても心折れずに論文採択にいたるための本質—

演者：平井 啓（大阪大学大学院人間科学研究科／経営企画オフィス）

セミナー 2 《10月15日(日) 9:15~10:15》 第2会場 (1F/小ホール)

座長：石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

〔"家族外来" "遺族外来" ~私たちが知っておきたいこと~〕

SE2-1 "家族外来"、"遺族外来" ~私たちが知っておきたいこと~

演者：大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

SE2-2 知っておきたい "家族外来"・"遺族外来"

演者：石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

SE2-3 家族・遺族

演者：井垣 弘（井垣法律特許事務所 弁護士）

セミナー3 《10月15日（日）10:25～11:25》 第2会場（1F／小ホール）

〔がん患者の不安・抑うつ：全ての医療者が知っておきたい アセスメントとマネジメントの必須ポイント〕

SE3-1 不安・抑うつのマネジメント

演者：明智 龍男（名古屋市立大学 大学院医学研究科精神・認知・行動医学研究分野）

SE3-2 がん患者の不安・抑うつ：全ての医療者が知っておきたい アセスメントとマネジメントの必須ポイント

演者：松島 英介（東京医科歯科大学 心療・緩和医療学分野）

セミナー4 《10月15日（日）11:35～12:35》 第2会場（1F／小ホール）

座長：内富 庸介（国立がん研究センター中央病院 支持療法開発センター）
塙野佳世子（横浜労災病院 心療内科）

〔悪い知らせを伝える際の患者の気持ちのつらさとコミュニケーション ～患者の気持ちと患者が望む伝え方を知って日常診療に役立てる～〕

SE4-1 精神疾患を有するがん患者へのコミュニケーションについて

演者：上村 恵一（市立札幌病院 精神医療センター）

SE4-2 悪い知らせを伝える際のコミュニケーション：患者が望む伝え方

演者：藤森麻衣子（国立精神・神経医療研究センター 自殺総合対策推進センター）

セミナー5 《10月15日（日）14:00～15:00》 第2会場（1F／小ホール）

座長：中西 健二（三重大学病院 医療福祉支援センター）
松本 穎久（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

〔精神腫瘍医、看護師、心理士は患者の何に注目して面談しているのか ～トータルペインを抱える患者への多職種アプローチ～〕

SE5-1 精神腫瘍医の面接

演者：平 俊浩（福山市民病院 精神科・精神腫瘍科）

SE5-2 トータルペインを抱える患者へのアプローチ～看護師の立場から～

演者：岡山 幸子（宝塚市立病院 緩和ケア病棟）

SE5-3 心理士が注目する点とは？

演者：堂谷知香子（東京大学医学部附属病院 小児科）

事例検討1 《10月14日(土) 10:00~11:00》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)

座長：馬場華奈己（岡山大学病院）

小川 朝生（国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発部）

指定発言者：河野佐代子（慶應義塾大学病院 看護部）

〔あなたにとっての「不穏」とは～その言動には理由がある～〕

CA1-1 あなたにとっての「不穏」とは～その言動には理由がある～

演者：馬場華奈己（岡山大学病院 看護部）

CA1-2 あなたにとっての「不穏」とは

指定発言者：小川 朝生（国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発部）

事例検討2 《10月14日(土) 13:40~15:00》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：厚坊 浩史（神戸百年記念病院 精神神経科）

稲田 修士（東京大学大学院 医学系研究科ストレス防御・心身医学）

コメンテーター：水野 泰行（関西医科大学 心療内科）

〔がんの進行はないのに？？でも痛い！
～心療内科の病態アプローチを学んでみよう～〕

CA2-1 がんの進行はないのに？？でも痛い！～心療内科の病態アプローチを学んでみよう～

演者：酒井 清裕（近畿大学 医学部内科学教室心療内科部門）

事例検討3 《10月14日(土) 16:30~18:00》 第2会場 (1F/小ホール)

座長：秋月 伸哉（千葉県立がんセンター 精神腫瘍科）

〔がん治療中止に際して患者よりも家族や医療者の意向が優先されるケース
－医療スタッフとしてどう理解し、どう関わるか－〕

CA3-1 がん治療中止時に家族や医療者の意向が優先されるケース

－医療スタッフとしてどう理解し、どう関わるか－

演者：満田 大（三井記念病院 精神科）

秋月 伸哉（千葉県立がんセンター 精神腫瘍科）

梅澤 志乃（東邦大学医療センター大森病院 看護部）

河野佐代子（慶應義塾大学病院 看護部）

事例検討4 《10月15日(日) 9:15~10:15》 第3会場 (7F/イベントホールA、B)

座長：小早川 誠（広島大学病院 精神科・緩和ケアチーム室）

伊達 泰彦（京都大学医学部附属病院）

〔患者の心理的葛藤を支える過程で、
疲弊(あるいは対立)する医療者の心理的問題〕

CA4-1 喉頭がん術後気切患者の転院・退院の検討時に認められた病棟看護師と主治医の対立と葛藤

演者：松田 能宣（近畿中央胸部疾患センター 心療内科）

小早川 誠（広島大学病院 精神科・緩和ケアチーム室）

佐久間博子（関西医科大学附属病院 緩和ケアチーム）

事例検討5 《10月15日(日) 9:15~10:15》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)
座長: 所 昭宏 (国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター)
宮田 郁 (大阪医科大学附属病院 看護部)
指定討論者: 白波瀬丈一郎 (慶應義塾大学 医学部 精神・神経科学教室)

[暴言・過度の要求・頻回のクレームなど怒りをめぐる理解と対応]

CA5-1 暴言・過度の要求・頻回のクレームなど怒りをめぐる理解と対応
演者: 田久保美千代 (北里大学病院) リエゾン精神看護専門看護師

事例検討6 《10月15日(日) 10:25~11:25》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)
座長: 小川 朝生 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)
上村 恵一 (市立札幌病院 精神医療センター)

[がん医療における認知症ケアのチームアプローチ —認知症ケア加算取得の実際を通じて—]

CA6-1 急性期病院における認知症患者の実態調査から見えてきたこと
演者: 谷向 仁 (京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻)

CA6-2 がん医療における認知症ケアのチームアプローチ
演者: 小川 朝生 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)

CA6-3 がん医療における認知症ケアのチームアプローチー認知症ケア加算取得の実際を通じてー
演者: 井上真一郎 (岡山大学病院 精神科神経科)

CA6-4 がん医療における認知症ケアのチームアプローチー認知症ケア加算1取得の実際を通じてー
演者: 東谷 敬介 (市立札幌病院)

事例検討7 《10月15日(日) 11:35~12:35》 第4会場 (7F/イベントホールC、D、E)
座長: 竹内 麻理 (慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター)
矢野 和美 (東京通信病院 がん相談支援センター)

[せん妄?うつ病?患者が希死念慮を訴えたとき、 どうアセスメント・ケアしますか?]

CA7-1 患者が希死念慮を訴えたとき、どうアセスメント・ケアしますか?
演者: 竹内 麻理 (慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター)
矢野 和美 (東京通信病院 がん相談支援センター)
枷場 美穂 (静岡県立静岡がんセンター)
木村 範子 (慶應義塾大学病院 看護部)
横尾実乃里 (神奈川県立がんセンター 精神腫瘍科)

事例検討8 《10月15日（日）15:20～16:20》 第4会場（7F／イベントホールC、D、E）

座長：宮崎 厚子（徳島大学病院 がん診療連携センター）

山田 了士（岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室）

〔コミュニケーションや関係構築に難しさを感じる患者へのアプローチ～パーソナリティ障害の観点から対応を考える～〕

CA8-1 コミュニケーションや関係構築が難しい患者へのアプローチ

～パーソナリティ障害の観点から対応を考える～

演者：中西 健二（三重大学病院 医療福祉支援センター）

木村 宏之（名古屋大学病院 精神科）

ランチョンセミナー1 《10月14日（土）12:30～13:30》 第1会場（8F／大ホール）

座長：新井 学（獨協医科大学越谷病院 泌尿器科）

〔がん患者様とより良いお別れのために —エンバーミングにできること—〕

演者：佐藤 貴子（アイエムエスジャパン株式会社 エンバーマー）

共催：アルファクラブ武藏野株式会社

ランチョンセミナー2 《10月14日（土）12:30～13:30》 第2会場（1F／小ホール）

座長：明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

〔支持療法、緩和ケア、そしてサイコオンコロジー〕

演者：内富 庸介（国立がん研究センター中央病院 支持療法開発部門）

共催：株式会社ツムラ

ランチョンセミナー3 《10月14日（土）12:30～13:30》 第4会場（7F／イベントホールC、D、E）

座長：松島 英介（東京医科歯科大学 心療・緩和医療学分野）

〔がん患者の精神・心理的問題のアセスメント方法と 抗うつ薬の選択基準 ～多職種向けに～〕

演者：伊藤 達彦（東京慈恵会医科大学 精神医学講座）

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

ランチョンセミナー4 《10月15日（日）12:45～13:45》 第1会場（8F／大ホール）
座長：川崎 康弘（金沢医科大学 精神神経科学）

〔日本人の死生観からみたうつ病と自殺予防〕

演者：飯森眞喜雄（東京医科大学名誉教授・いいもりこころの診療所 院長）

共催：ニプロ株式会社

ランチョンセミナー5 《10月15日（日）12:45～13:45》 第3会場（7F／イベントホールA、B）
座長：山田 了士（岡山大学大学院 精神神経病態学教室）

〔チームで行うがん患者におけるうつ病・うつ状態への対応〕

演者：小川 朝生（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）

共催：塩野義製薬株式会社

ランチョンセミナー6 《10月15日（日）12:45～13:45》 第4会場（7F／イベントホールC、D、E）
座長：北野 敦子（聖路加国際大学 公衆衛生大学院）

〔キレイを諦めない！患者さんを支える、私たちの解決策〕

演者：根岸ゆきえ（株式会社スヴェンソン レディス事業部）

共催：株式会社スヴェンソン、株式会社資生堂

一般演題・口演（日本臨床死生学会）

一般口演1 グリーフケア 《10月14日（土）15:20～16:20》 第3会場（7F／イベントホールA、B）
座長：白井 幸子（ルーテル学院大学）

O1-1 青年期の死別経験者に対する周囲の望ましい支援に関する調査

関西福祉科学大学 社会福祉学研究科 心理臨床学専攻 玉川 香菜

O1-2 死別後のコーピングに関する研究—青年期を対象とした質的研究—

明治学院大学大学院 心理学研究科 石田 航

O1-3 子どもを病気で亡くした親のグリーフへ影響を与える要因の検討

関西福祉科学大学大学院 小鶴 佳苗

O1-4 チャップレンが関わるグリーフケアに関する意識調査～流死産の死児とその家族のケア～

社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院 打本 未来

O1-5 一般病棟におけるグリーフケアについての考察～デスエデュケーション導入を試みて～

医療法人橘会 東住吉森本病院 緩和ケア病棟 江口 由紀

O1-6 性的マイナリティのパートナー死別者のグリーフワーク

立正佼成会附属佼成病院 緩和ケア科 北村 浩

一般口演2 End of Life 《10月14日（土）13:40～15:00》 第5会場（6F／大会議室）

座長：市来 真彦（東京医科大学）

- O2-1 痛みを訴え続けた30代原発不明がん患者へのケア

医療法人東札幌病院 内科病棟 能代真紀子

- O2-2 終末期の患者の家族は“告知”をどう受け止めたか？

東洋英和女学院大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻 博士後期課程 濑川 博子

- O2-3 緩和ケア病棟に入院している終末期患者の安楽

富山大学 北谷 幸寛

- O2-4 緩和ケア病棟で看取りを迎える家族が心を支えられたケア

市立岸和田市民病院 松本 清乃

- O2-5 在宅ケアサービスを利用することが遺族の死生観にどのように影響を及ぼしたのか

—家族を自宅で看取った遺族の語りから—

早稲田大学人間科学研究科 高野由紀子

- O2-6 緩和医療における終末期がん患者への支援の在り方

—スピリチュアリティに焦点をあてた文献検討—

国家公務員協同組合連合会吳共済病院 尼子 千秋

- O2-7 緩和ケア病棟入院患者の転機と死亡場所について

横浜市立市民病院緩和ケア内科 神野 菜月

- O2-8 特別養護老人ホーム介護職員の看取りケアに対するストレスの5年間の変容について 第2報

社会福祉法人 三徳会 鈴木 貴文

一般口演3 高齢者 《10月14日（土）15:20～16:20》 第5会場（6F／大会議室）

座長：五十子敬子（尚美学園大学）

- O3-1 急性期病院内科に入院した高齢者患者のCONUTを用いた栄養学的生命予後判定と、高齢者のフレイル（脆弱性）

菊名記念病院 総合診療科 庭野 元孝

- O3-2 都市部及び非市街地域における高齢者の孤立化と自立に関する一考察

北海道大学大学院 文学研究科 宮嶋 俊一

- O3-3 高齢者における日常のスピリチュアルな体験（DSE）に関する研究の動向

川崎医療福祉大学 岡本 宣雄

- O3-4 域に住む高齢者の延命治療に対する意思と家族への伝達の準備

—高齢者同士の語り合いによる結果—

神戸女子大学 川喜田恵美

O3-5 認知症高齢者に対するソーシャルワーク理論と実践の発展経過に関する考察
—Rights based practiceとしてのナラティヴ・ソーシャルワーク (NSW) の可能性—
上智大学総合人間科学部社会福祉学科（嘱託助教）道念 由紀

O3-6 一般住民の末期がんに対するイメージと患者支援への意識における世代間比較
摂南大学看護学部 竹下 裕子

一般口演4 宗教・スピリチュアル 《10月14日（土）10:00～10:50》 第5会場（6F／大会議室）
座長：小西 達也（武蔵野大学）

O4-1 難病患者における医療従事者に対する心理過程の解明－第1報：当事者心理の検討－
山口県立大学大学院健康福祉学研究科博士後期課程 松元 悅子

O4-2 被災高齢者の生きる力を支えるケア－東日本大震災での宗教者によるケアの分析－
東洋英和女学院大学大学院 人間科学研究科 博士課程 山田 牧子

O4-3 経文聴取による喪失悲嘆ストレスケア－ペットロス経験者を対象にした実証実験より－
東北大学大学院文学研究科 谷山 洋三

O4-4 現代キリスト教の「天国」理解：その神学的および臨床的妥当性の検証
同志社大学 神学研究科 博士後期課程 徳田 信

O4-5 臨死期の観念をめぐって
聖学院大学 院生 小野 久志

一般口演5 死生観 《10月15日（日）14:00～15:00》 第5会場（6F／大会議室）
座長：小野 充一（早稲田大学 人間科学部）

O5-1 自死遺族という生き方－行動と関係性の視点からの検証－
早稲田大学大学院 人間科学研究科 緩和医療学・臨床死生学研究室 下川 千草

O5-2 スピリチュアルケア演習における看護学生の学び
三育学院講師 宮城 真理

O5-3 看護学生に対するがん終末期患者の病の軌跡を事例に取り込んだ講義の実際
帝京科学大学医療科学部看護学科 大西奈保子

O5-4 がんになっても自分らしく生きていくために－タナトロジーカフェの試み－
豊橋創造大学 大野 裕美

O5-5 自分自身の人生の最期を考える－その実態と促進要因－
市民公開講座参加者を対象とした意識調査より
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学 ヘルスサービスリサーチ分野 羽成 恒子

O5-6 中高生への教育をきっかけとした病院医療と在宅医療の連携改善
「子はかすがいプロジェクト」
横浜市立市民病院 緩和ケア内科 横山 太郎

一般口演6 セラピー 《10月15日（日）9:15～10:25》 第5会場（6F／大会議室）
座長：浅野美知恵（東邦大学 健康科学部）

- O6-1 がん体験者へのクリエイティブ・ライティング・プログラムの開発
日本女子大学 人間社会学部 門林 道子
- O6-2 次脳機能障害者家族の介護負担軽減のための音楽療法の在り方
くらしき作陽大学 伊藤 智
- O6-3 スピリチュアルケアとしての音楽の一考察
—ホスピスの音楽療法でのリクエスト曲の歌詞分析を通して—
一般財団法人 薬師山病院 岡下 晶子
- O6-4 緩和ケア病棟におけるアロママッサージについて
患者・家族・医療スタッフ間のコミュニケーションにもたらす効果
早稲田大学大学院人間科学研究科 石井 友恵
- O6-5 大学生における、他者との関わり方と、プライベートを晒すことについての
受容度合いについて
早稲田大学人間科学部緩和医療学・臨床死生学教室 石丸裕里加
- O6-6 大学生の死生観とSNSについて
早稲田大学人間科学部人間環境科学科 緩和医療学・臨床死生学研究室所属 遠田 星
- O6-7 20代の息子と死別した家族の悲嘆と意味の探求
東北大学大学院文学研究科 研究生 金田 誠晃

一般演題・ポスター（日本サイコオンコロジー学会）

ポスター発表 発表者在席時間《10月14日（土）18:10～18:40》
ポスター会場（4F／研修室、第一グループ活動室）（5F／第二～四講習室）

- P1 精神症状**
- P1-1 がん患者の術後せん妄に対する術前不安の影響：前向き観察研究
国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科／国立がん研究センター社会と健康研究センター 健康支援研究部 和田 佐保
- P1-2 がん性疼痛患者のケアに自閉症スペクトラムという視点が重要であった症例
名古屋大学 保健管理室 メンタルヘルス部門 長島 渉
- P1-3 食道がん手術を受ける患者への多職種せん妄介入プログラムの作成とその実行可能性の検討
神奈川県立がんセンター 緩和ケアセンター 谷島 和美
- P1-4 手術前がん患者の抑うつ傾向と対処様式の影響要因の検討
岡山大学病院 周術期管理センター 市川 あい
- P1-5 同種造血幹細胞移植患者を対象とした精神腫瘍科による早期介入の試み
国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 遠藤 麻惠
- P1-6 傾向困難な終末期患者に対して使用したアセナピン舌下錠の効果検討
小田原市立病院 緩和ケアチーム 心身医療科 竹内 文一

- P1-7 抑うつ状態を呈したがん患者の近赤外線スペクトロスコピーによる前頭部・側頭部脳機能評価**
国立病院機構高崎総合医療センター 精神科 井田 逸朗
- P1-8 総合失調症のあるがん患者が外来化学療法を継続できた1例**
医療法人 明和病院 看護部 秋吉由利子
- P1-9 高容量のオピオイド使用の背景に注意欠陥多動性障害がみられた頭頸部がん患者への対応**
熊本大学医学部附属病院 神経精神科 城野 匠
- P1-10 人格障害と診断された配偶者を有する自閉症スペクトラムの肺がん患者へのFOLFIRINOX療法の1治療経験**
山形大学附属病院 腫瘍内科 鈴木 修平
- P1-11 大学病院の緩和ケアチームへ紹介されたせん妄対応についての報告：その現状と課題**
産業医科大学病院 緩和ケアセンター 久保 隆光
- P1-12 緩和ケア病棟において経験した肺癌症例の精神症状に関する検討**
札幌清田病院 緩和支持医療センター 緩和ケア病棟 高橋 元代
- P1-13 緩和ケア病棟入院中のがん患者における嗅覚、味覚、不安・抑うつの経過と関連性についての臨床試験**
大阪大学大学院薬学研究科 医療薬学分野／市立芦屋病院 薬剤科 仁木 一順
- P1-14 緩和ケアにおける非精神科医による精神症状の評価の正確性、依頼理由と精神科診断との比較から**
熊本大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 森枝 悟
- P2 緩和ケア**
- P2-1 緩和ケア病棟で主治医との会話を拒否した事例**
市立芦屋病院 緩和ケア内科 松田 良信
- P2-2 当院緩和ケアチームが介入した認知症がん患者の特徴**
熊本大学医学部附属病院緩和ケアチーム／熊本大学大学院医学教育部神経精神医学分野 一美奈緒子
- P2-3 がん患者における難治性嘔気・嘔吐に対するミルタザピンの効果**
広島市立広島市民病院 精神科 倉田 明子
- P2-4 前立腺癌化学療法中に意識障害を発症し診断に難渋した一症例**
大阪大学 大学院医学系研究科 精神医学 石井 良平
- P2-5 終末期がん患者のせん妄に対して、アセナピンを投与した7症例について**
ベルランド総合病院 緩和ケア科 山崎 圭一
- P2-6 当科でのせん妄に対するペロスピロン使用経験**
大崎市民病院 本院診療部 腫瘍内科 高橋 義和
- P2-7 化学療法中の患者を含む腫瘍内科患者における予後予測法の精度と有用性に関する検討**
石巻赤十字病院 腫瘍内科 高橋 秀和

P2-8 "睡眠補助薬"としてのケタミン

鶴巻温泉病院 緩和ケア病棟 奥津 輝男

P2-9 緩和ケア病棟入院中にアカシジアとせん妄を発症し、症状コントロールに難渋した40歳代乳がんの症例

宝塚市立病院 緩和ケア病棟 岡山 幸子

P2-10 がん患者の予後規定因子としてのせん妄～認知機能障害との関連

横浜市立大学附属病院 緩和医療部 吉見 明香

P2-11 A Y A世代のがん患者が抱える苦悩の緩和にケミカルコーピングを認めた一例

藤沢湘南台病院 看護部 林 えり子

P2-12 当院緩和ケアチームにおける精神的問題への依頼の検討（平成28年度）

関西医科大学 精神神経科学教室／関西医科大学総合医療センター 緩和ケアチーム 吉村 匡史

P2-13 統合失調症の治療を拒否した乳がん患者の「自分らしさ」について

前青梅市立総合病院 リエゾン精神看護専門看護師 野村 智美

P2-14 疼痛の原因が筋筋膜性疼痛症候群であった担癌患者の1例

奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセアンター 田原 一樹

P2-15 予後3ヶ月と診断されたがん患者の意思決定を支えるチームアプローチの効果

安曇野赤十字病院 緩和ケアチーム 看護部 堀 華乃子

P2-16 A氏へのからだを介したアプローチに対する一考察

医療法人玉昌会 高田病院 心理相談室 西 康子

P2-17 子宮肉腫終末期にある壮年期女性の希望を支えるチーム医療

高知大学医学部附属病院 がん治療センター 緩和ケアチーム 三本 芳

P2-18 家族のいないがん患者への関わり～全人的苦痛の緩和に向けて～

医療法人春秋会 城山病院 緩和ケアチーム 河野 恵

P2-19 ランバート・イートン症候群を併発した肺がん患者に対する緩和ケア

～希少疾患を抱える患者との関係性構築までの過程～

医療法人 東札幌病院 西棟緩和ケア病棟 山口 弘

P2-20 介護老人保健施設における看取り事例の経過と問題点

介護老人保健施設「あけみおの里」 石川 清司

P2-21 「緩和ケアへの移行」の難しさ～苦悩する2症例を通して

社会医療法人友愛会 豊見城中央病院 心理相談室 田畠 優美

P2-22 当院におけるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する取り組み

川口市立医療センター 精神腫瘍科 比嘉 謙介

P2-23 緩和ケア患者の意思を尊重されず家族の意向で気管切開術に至った症例

戸畠リハビリテーション病院 緩和ケア病棟 看護科 是永伊代奈

P2-24 働くことを希望し続けた終末期がん患者への支援

一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 緩和ケアチーム 渡邊 祝子

P2-25 意識障害を呈した終末期患者との関わり方を家族指導した一症例

～ユマニチュードの技法を通じて～

奈良県立医科大学附属病院 医療技術センター リハビリテーション2係 橋本恵梨子

P2-26 余命1週間と宣告を受けた患者の看護を通して～患者・家族が満足する看取りを考える～

苦小牧東病院 看護部 緩和ケア病棟 佐藤 早苗

P2-27 初診時に進行肺臓がんと診断、余命告知を受けたために混乱し、

強い喪失体験が発生した患者への支援を考える

慈正会丸山記念総合病院 外来化学療法室 看護部 柳 亜希子

P2-28 肺癌患者が抱く唯一の希望としての化学療法から真の希望を導き出せた

スピリチュアルケアの一例

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 黒田 宏美

P2-29 進行がん患者への精神的・心理面へのケアとしてのアートセラピーの機能の検討

聖マリア学院大学 看護学部 安藤 満代

P3 心理社会

P3-1 当院の緩和ケアチームにおける心理士の活動の現状と課題

京都第一赤十字病院 精神科（心療内科）／京都第一赤十字病院 緩和ケア内科 岡本 恵

P3-2 介護保険事業所で勤務する職員の看取りに関する意識

朝倉医師会病院 がん相談支援センター 梅木 倫子

P3-3 急性期病院におけるがん患者への臨床心理士の取り組み

～総合相談室・がん相談支援センターの活動報告～

川口市立医療センター 総合相談室・がん相談支援センター 西内 俊朗

P3-4 緩和医療における臨床心理士の役割の「今」と「これから」－「教育」と「臨床」をつなぐ－

駒澤大学 文学部 心理学科 萩木 博子

P3-5 緩和ケア病棟における臨床心理士の役割－ある事例を通して医師の立場から思うこと－

兵庫県立柏原病院 内科（緩和ケア病棟） 板倉 崇泰

P3-6 緩和ケア病棟に入院した自閉症スペクトラム障害のある

急性リンパ性白血病患者への臨床心理士の関わり

兵庫県立柏原病院 緩和ケア病棟／宝塚市立病院 心療内科 仲村 真理

P3-7 がん患者を対象とした心理士による心理相談と、精神科によるリエゾン診療

徳島市民病院 精神科 多田 幸雄

P3-8 怒りとともに「しびれ」を繰り返し訴えるがん患者への包括的サポートについて

みやぎ県南中核病院 がん診療相談支援室 高橋 恵子

- P3-9 終末期がん患者に対し短時間瞑想法の導入を行った一例
～マインドフルネス瞑想から慈悲の瞑想へ～
川口市立医療センター総合相談室・がん相談支援センター／上智大学大学院 総合人間科学研究科 日吉 圓順
- P3-10 乳がん患者へのマインドフルネス認知療法の有効性 —無作為化比較対照試験—
慶應義塾大学看護医療学部 朴 順禮
- P3-11 「希望をつなぐということ」～ターミナル期におけるがん患者さんの語りより～
鹿児島医療センター がん相談支援センター 木ノ脇真弓
- P3-12 当院でのがん患者に対する禁煙外来の取り組みについて
～禁煙治療成功・失敗に関連する要因とは？～
国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 西村 知子
- P3-13 外来化学療法患者の不安に関する「おもい」の特性を明らかにする
県民健康プラザ 鹿屋医療センター 若林理恵子
- P3-14 知的障害を伴う中年期独身乳がん患者への心理的サポート
市立芦屋病院 緩和ケア内科 金井菜穂子
- P3-15 がんの予防と治療を目指す心理療法「オートノミートレーニング」の事例研究
九州大学 基幹教育院 永野 純
- P3-16 がん患者に対する行動活性化療法プログラムの可能性
国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科 平山 貴敏
- P3-17 終末期がん患者に対するコラージュ療法が果たす役割の検討
—4事例のコラージュ表現を通して—
京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室 茅野 綾子
- P3-18 緩和ケアチーム体制の変化が臨床心理士の介入形態に及ぼす影響
～徳島大学病院でのチーム活動の検討から～
徳島大学病院 がん診療連携センター 谷口 早紀
- P3-19 緩和ケアチームにおける臨床心理士と精神科医師との連携について
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 緩和医療科／
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 精神科 石井あかね
- P3-20 『コラージュ療法を用いたグループワークの試み～援助者のケアのために』
J R 札幌病院 前田 整
- P3-21 医療者への欲求が多い終末期患者への関わり ～倫理問題の乗り越え方～
中部労災病院 看護部 水野 志保
- P3-22 「治るより帰りたい」と訴えた急性骨髄性白血病患者の心理面接
～繰り返し見る「夢」を扱った1症例
四国大学 生活科学部生活科学科 医療心理学研究室／
徳島大学大学院医科学教育部医学専攻博士後期課程 精神医学分野 上岡 千世

- P3-23 緩和的放射線療法を受ける肺がん患者からレジリエンスの強化を考える一例
新潟厚生連長岡中央総合病院 看護部 三浦一二美
- P3-24 夫を支えた妻が臨床心理士との対話を通し悲嘆からの回復へと向かった一事例
嶋田病院 緩和ケア病棟 臨床心理士 寺戸 沙織
- P3-25 5年間病と付き合った患者の「自身の死」の捉え方の変化
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター 館野 一宏
- P4 家族・遺族**
- P4-1 小児がん患者の親の心的外傷後成長に関連する要因の検討－親の要因間の検討を加えて
東京医科歯科大学医学部附属病院 心身医療科 中山 菜央
- P4-2 化学療法を受けるがん患者のパートナーの「心の健康および気持」：
テキスト・マイニングを用いた分析
東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野 石塚 典子
- P4-3 自身の死の意味づけを「死後生」に求めた事例の検討
独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 支持・緩和療法チーム／薬剤部 小杉 孝子
- P4-4 緩和ケアチームによる家族サポートを最期まで行った終末期がん患者の1症例
公立岩瀬病院 緩和ケアチーム 佐藤 友香
- P4-5 血液腫瘍患者の家族看護～グリーフケアに繋がる家族看護とは～
N T T西日本大阪病院 看護部 知念 聖子
- P4-6 東札幌病院の遺族ケアについての活動報告
東札幌病院 MSW課（地域連携室） 原 優
- P4-7 自分の思いを表出できる環境を求めていた遺族に医療ソーシャルワーカーが
行ったグリーフケアからの考察
医療法人東札幌病院 MSW課（地域連携室） 前さこ 舞
- P4-8 名古屋市立大学病院における小児遺族会の経験——4年間の変遷と継続的運営の課題
名古屋市立大学病院 緩和ケア部／名古屋市立大学病院 医事課 小島菜々子
- P4-9 亡くなられた患者さまの思いをたどって
～残された夫がグリーフを乗り越えるために私たちができること～
耳原総合病院 緩和ケア病棟 看護部 渡邊真由美
- P4-10 AYA世代の子どもを亡くした親への実態調査報告
公益財団法人がんの子どもを守る会ソーシャルワーカー 樋口 明子
- P4-11 緩和ケア病棟遺族会における臨床心理士の役割
四国がんセンター 井上 実穂

P5 看護

- P5-1 積極的治療に生きる希望を持っていた終末期肺がん患者の生きる希望が変化した過程における看護介入の検討

医療法人 溪仁会 手稻溪仁会病院 小林ちさと

- P5-2 乳がん再発後の患者が抱いていた性に関する夫婦生活困難について

前青梅市立総合病院 リエゾン精神看護専門看護師 野村 智美

- P5-3 「自宅で過ごしたい」を支える～訪問看護師との連携についての一考察～

富山市立富山市民病院 緩和ケア内科外来 金丸 修子

- P5-4 治療を希望していた終末期がん患者の在宅療養開始から在宅看取りまでの看護支援

那須赤十字訪問看護ステーション 高野 嘉子

- P5-5 寄りそう看護を通じ看護師にとって大切な事がなにかを学んだ一症例

株式会社飯塚病院 緩和ケア病棟 水原絵里華

- P5-6 痛みで苦しむ患者を前にして、看護師は何ができたのか

共愛会戸畠リハビリテーション病院 看護部 緩和ケア病棟 小坂 美那

- P5-7 がんを合併した統合失調症患者の看護における現状と課題

－精神科看護師のケアに着目した看護教育の提言－

いわき明星大学 看護学部看護学科 精神看護学 荒井 春生

- P5-8 がんを合併した統合失調症患者の看護における現状と課題

－看護師と患者の語りデータ・ベースの構築－

いわき明星大学 看護学部看護学科 精神看護学 荒井 春生

- P5-9 患者に抱いた陰性感情とどう向き合うか－他職種カンファレンスが有効であった一例－

国立国際医療研究センター病院 看護部 物集由紀子

- P5-10 看護師の言葉に不快感と失望を感じた女性へのアピアランス支援を考える

新潟厚生連 三条総合病院 藤本小夜子

- P5-11 看護師へ敵意を抱いていたせん妄患者の一例

飯塚病院 中央6階病棟 池川 尚美

- P5-12 コミュニケーションツールとしての苦痛スクリーニングシートの有用性について

信州大学医学部附属病院 看護部 内藤 綾子

- P5-13 緩和ケア病棟看護師に対するスピリチュアルケア学習会の効果の検討

－スピリチュアルケア能力測定尺度を用いて－

徳島県立三好病院 浅野 博美

P6 コミュニケーション

- P6-1 地方一般病院にて外科医が開催したCSTの報告-水戸CSTでの経験-

水戸済生会総合病院 外科 高久 秀哉

- P6-2 抗がん剤治療中止を伝えられる際の説明に対するがん患者の意向

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺総合対策推進センター 藤森麻衣子

- P6-3 終末期がん患者および家族における療養先の意思不一致がQOLに及ぼす影響：
一次解析に関する結果報告
東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野 市倉加奈子
- P6-4 意思疎通がとりづらい患者と家族のコミュニケーションに対する支援に関する研究
東北大学大学院 教育学研究科 人間発達臨床科学講座 臨床心理学分野 長谷川素子
- P6-5 子育て中のがん患者が病気を子どもに伝えることと親の心理的健康との関連
早稲田大学大学院人間科学研究科 小川 祐子
- P6-6 がん患者が子どもへ病気を伝えたことによる心境変化
独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 玉城 結
- P7 社会支援**
- P7-1 外来化学療法を受けるがん患者の栄養相談の希望とその背景要因
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 腰本さおり
- P7-2 がん体験者と家族が語りあえる場づくりとその効果
福島県立医科大学会津医療センター附属病院 患者支援センター 平野 千穂
- P7-3 当院がん相談サロンにおける「女性のがん交流会」の活動報告
札幌医科大学 アイン・ニトリ緩和医療学推進講座 米田 舞
- P7-4 がん相談支援センターにおける患者サロンの実践報告
静岡赤十字病院 医療社会事業部 療養支援課 浅場 香
- P7-5 がん患者の心理社会的サポートサービスの利用を促進するチラシ開発の試み
大阪大学大学院 人間科学研究科 松井 智子
- P7-6 医療スタッフが運営する院内がんサロンの役割
—連続性を持たせたサポートプログラムの試みを通して—
横浜市立みなと赤十字病院 精神科（心理） 福榮 みか
- P7-7 がん患者を看病する配偶者の社会的問題とその支援ニーズの実態
東京医科歯科大学大学院心療・緩和医療学分野 天野可奈子
- P7-8 妊娠性温存診療における心理社会的サポート体制の実態と多職種連携
国立成育医療センター研究所 小泉 智恵
- P7-9 CLIMB® プログラムを実施して—親が、がんになった子どもたちの気持ちを支える—
上智大学グリーフケア研究所 人材養成講座 岡本 直子
- P7-10 CLIMB® プログラムにおける親グループの重要性
埼玉石心会病院 緩和医療科 岡本 信也
- P7-11 コミュニティサービス「キャンサーペアレンツ」活動報告
～こどもへの告知に関する調査、家族間交流の試み～
神戸労災病院 精神科・心療内科 大石 直子
- P7-12 若年期・中年期のがん患者が経験する社会的問題と心理的問題との関連
金沢医科大学 医学部 腫瘍内科学 久村 和穂

- P7-13 働く世代のがん患者の生活状況と心理社会的問題：婚姻・同居者・経済状況との関連
金沢医科大学 医学部 腫瘍内科学 久村 和穂
- P7-14 市民参加型ワールドカフェがレジリエンス獲得に寄与する可能性
富山市立富山市民病院 緩和ケア内科 桶口 史篤
- P7-15 統合失調症患者の住民がん検診受診率－市の検診受診記録を用いた単施設横断研究
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 藤原 雅樹
- P7-16 中高年期がん患者のサバイバーシップを阻害する経済的・社会的要因の探索
関西医科大学心療内科学講座 大石 直子
- P7-17 がんサバイバーが感じるスティグマの頻度と関連因子
慶應義塾大学医学部精神神経科・緩和ケアセンター 藤澤 大介
- P7-18 AYA世代がんサバイバーの恋愛・結婚に対する認識の研究
国立がん研究センター がん対策情報センターがん医療支援部 山谷 佳子
- P7-19 小児期・AYA期発症がん経験者における就職活動時の周囲からの支援・関わりに対する評価
国立がん研究センター サバイバーシップ支援部 鷹田 佳典
- P8 リサーチ**
- P8-1 がん患者苦痛のスクリーニング精神面陽性患者に対する対応方法の検討
大崎市民病院 緩和ケアチーム 渡邊 裕美
- P8-2 タブレット端末を用いたがん患者へのPatient Reported Outcome調査の実施可能性
国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部 川原 美紀
- P8-3 看護師による終末期患者の精神的心理的ケアとしての短期回想法の実施可能性の検討
聖マリア学院大学 看護学部 安藤 満代
- P8-4 婦人科がん患者の治療後の身体的不調がQOLに与える影響と
stress coping, social support, 自己効力感の関連性
国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部 富田真紀子
- P8-5 進行がん患者における抑うつに対する精神療法の有用性：系統的レビュー&メタアナリシス
名古屋市立大学病院 緩和ケア部 奥山 徹
- P8-6 がん患者に対する行動活性化療法の構成要素に関する文献レビュー
早稲田大学大学院 人間科学研究科 畑 琴音
- P8-7 がん医療における「正確な情報提供」を再考する－行動経済学の視点から－
東北大学大学院 教育学研究科 吉田 沙蘭
- P8-8 頭頸部がん患者に対するストレスマネジメント・プログラムのうつ症状低減効果：
ランダム化比較試験中間報告
東京医科歯科大学大学院 心療・緩和医療学分野 市倉加奈子
- P8-9 生き方尺度を用いたがん患者の入院時の実態
宮崎県立看護大学 重久加代子

P8-10 がん関連スティグマに関する尺度の系統的レビュー

慶應義塾大学 精神・神経科学研究室 竹内 恵美

P8-11 Bereavement Risk Assessment Tool (BRAT) 日本語版の実用化に向けた予備的調査の実施

東京都医学総合研究所 心の健康プロジェクト 廣岡 佳代

P9 その他

P9-1 がん患者の苦痛に関するスクリーニング・トリアージプログラムを普及するためのワークショップの有用性

名古屋市立大学病院 緩和ケア部 内田 恵

P9-2 経口抗がん剤を内服している大腸がん患者の服薬ノンアドヒアランスと服薬に伴う困難感との関連

東京大学医学部附属病院看護部 平尾千恵子

P9-3 病にかかわる体験が医学生に及ぼす影響

高知大学 医学部神経統御学講座神経精神科学教室 掛田 恭子

P9-4 熊本地震時に緩和ケアチームで臨んだこころのケアへの取り組み

熊本赤十字病院 診療支援課 村上 瑞梨

P9-5 東日本大震災を経験した精神科看護師へのアロマテラピー・トリートメントの意味

いわき明星大学 看護学部看護学科 精神看護学 荒井 春生

市民公開講座 《10月15日（日）16:30～17:30》 第1会場（8F／大ホール）

司会：明智 龍男（日本サイコオンコロジー学会代表理事）
飯森眞喜雄（日本臨床死生学会理事長）

[いまを生きる]

演者：コシノジュンコ（デザイナー）

大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

大会長特別企画

Gifts from the SORA

空からの贈り物 《10月14日（土）～15日（日）》 展示会場（6F／中会議室）

小児がんで空へと旅立った4歳から18歳までの子どもたちの作品と子どもの服から生まれたteddy bearを展示いたします。

懸命に生きた子どもたちの証を感じていただけたらと思います。

女性のキャリアパスサロン 《10月14日（土）～15日（日）》 女性のキャリアパスサロン会場（4F／第一特別講習室）

本学会では女性はもちろん、男性や子供にもオープンな「女性のキャリアパスサロン」をご用意しました。医師、看護師などの医療従事者が子育てと仕事をどのように両立しながらサイコオンコロジーの専門家となったのか、複数名のモデル例をパワーポイントで自由に閲覧できる情報提供ブースを設けました。妊娠したけど専門医や認定看護師を諦めたくない！シングルマザーはどうやって育児と仕事を両立してるの？子供を抱えて学会参加はどうする？当直や夜勤はどう乗り切る？男性医師（管理職）からみた女性サポート体制は？などなど、先輩ママ、パパからの助言満載です。女性スタッフもおりますので是非、情報交換の場としてもご利用下さい。無料のお茶菓子もご用意していますので、休憩所としてもご利用できます。